

協合日

25年度も脱炭素化推進

技術委・全国技術委員 長会 議 高品質合材を安定供給

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）は18日、東京都中央区のTKPガーデンシティPRE



MIUM東京駅日本橋で2024年度1回目の技術委員会を開き、25年度の事業計画案と予算案を了承した。25年度事業計画では引き続きアスファルト合材の脱炭素化を推進。有効な材料や燃料、合材工場の製造装置などを調査する。

冒頭あいさつした守安弘周技術委員長は「私たちが携わっている道路舗装は国民の安全・安心の確保や国の持続的発展に資する重要な社会資本であり、アスファルト合材製造業界の果たす役割も大変重要」と強調。

その上で「多種多様な社会の要請に対応する良質なアスファルト合材の安定供給を目的に調査研究、製造技術開発を行う。特にカーボニュートラル（CN）に向け、合材工場での低炭素化への取り組みを推進していく必要がある」との認識を示した。

25年度事業計画では合材の脱炭素化とともに▽合材（新規・再生）の品質管理を総合的に調査検討▽アスファルト発生材の再生改質および再々生を調査検討▽「社会構造の変化に対応し

たアスファルト混合物再生利用技術に関する共同研究」を実施▽「中温化剤・中温化アスファルトを活用した中温化混合物の製造・施工に関する調査研究」を実施▽技術研修会の資料作成や講師派遣。関係団体の技術研修会に協賛参加▽関係団体との情報交換、海外参考技術などの調査▽仙台で全国技術委員長会議の開催の一の各事項を盛り込んだ。

同日は技術委員会に続いて全国技術委員長会議も開催。日合協による調査研究などの活動を報告し、土木研究所先端材料資源研究センターの新田弘之材料資源研究グループ長が「アスファルト舗装の永续リサイクルに向けて」をテーマに特別講演した。

